

# 平成 30 年度第 3 回羽曳野市こども夢プラン推進委員会

日時:平成 31 年3月5日(火)午後2時

場所:羽曳野市役所 A 棟中・東会議室

## 1. 開会

## 2. 市長あいさつ

平成 30 年度第 3 回目となります。こども夢プラン推進委員会の開催をお願いしたところ、公私忙しいところ多くの方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、平成 31 年第 1 回の定例会の開催をさせていただいており、これからの 1 年間の「施政方針」をお示ししています。また、それに伴う予算等を審議しているところです。

全国的な課題ですが、少子高齢化の中にあって、たくさんの施策をいかに展開できるかを、この 1 年間で進めてまいるところです。本市でも子どもたちを取り巻く環境を早くから前に進めており、就学前の保育・教育の手立てをしております。

とりわけ、平成 30 年度より「こども未来館たかわし」を開設させていただきました。31 年度の募集についても、既に定員を超えている状況でございます。ある意味でいい状況が生まれつつあると思います。

また、「はびきの埴生学園」は、幼小中一貫校として学年の区切りもなく、教育をさせていただいております。16 名の子どもたちが校区を超えての入学を希望しているところです。

こうした、枠にとらわれない、子どもたちを中心に考えた方針は、保護者の皆さんにご理解いただいているのではないかと考えております。

最後に 1 点、今年の 7 月には「百舌鳥・古市古墳群」が大阪で初めて世界遺産に登録されるかどうかというところ です。先人が残した歴史遺産をどう保全していくのか、地域資源をどう整備をしていくのか。ということが問われていると認識しております。今後も地域環境の整備というところに力を入れていきたいと思います。広さは約 800 坪ほどありますので、そのままの形を残して皆様に使っていただこうと考えております。

それでは、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

## 欠席の委員の紹介

## 傍聴者の案内(1名)

## 資料の確認

## 3. 子ども・子育てアンケート結果について

### ○資料2、資料2-1に基づき事務局より説明

### ○質疑

#### (1)12. 資料 2-1、「小学校区不明」「2つ以上の小学校区」について

⇒事務局) 選挙の小学校区で分類しており、データの抽出は、情報政策課に依頼しております。「小学校区不明」

「2つ以上の小学校区」2つまとめて次回の会議で報告させていただきます。

(2)11. 回収率が地域ごとに違うが、意識の違いなのか？

⇒事務局) 人口比にあわせて地域ごとに配布数を調整しました。地域ごとの差もあるかもしれませんが、それぞれのご家庭の事情もさまざまですので、一概に地域の差と言い切ることができるものでもありません。

(3)12. 回収率が 50% 台ということはどう評価しますか？

⇒事務局) 他の市町では 40% 台というところも聞いているので、回収率は高い方であると考えています。

(4)9. 祖父母の子育ての参加率が高い数字というのは、シングルが多いということの影響か？

⇒事務局) ひとり親家庭については報告書に「同居などの状況」で記載しておりますが、前回、5 年前の調査と比べて「小学生児童」が若干増加しているものの、大きな差はありません。

⇒1. アンケート調査でシングルの方が多いという議論をするよりも、国政調査などの数字を見るのがよいのではないのでしょうか。割合を問題にするものに対しては、アンケートで議論するのも良いかもしれません。こうした調査は経年比較をしていくことが重要だと思います。長期的な変化というところで、副委員長がテーマ的に専門に近いと思いますので、過去のデータを元に経年比較をして、追加の分析をまとめて頂いてはと考えているところです。

(5)12. スマホを持たせることについて、所持は学校が許可していることなのだろうか。

⇒事務局) 市の小学校への持ち込みについては、担当課が来ていないので、確認次第報告させていただきます。

⇒事務局) マスコミの方でも報道されましたが、大阪府で、小中学校への持ち込みについて、2 月にガイドラインの素案を出されていますので、これから決定されるのではないかと思います。

(6)12. 遊び場について、前回、前々回から出ているが、対策は。

⇒事務局) 公園の管理や遊具については、遊具を置いても老朽化していきます。また公園によっては地元に管理をお願いしている所もあるなど、課題はあります。また、ボール遊びをする場所についても、一般の方にぶつかったりと問題になっていますが、ネットを張るなどの対処が考えられます。ただ、費用的な問題はあります。

(7)12. 情報を入手しやすいという回答が低いがどのように考えるか

⇒事務局) 本市では、子育て情報サイトとして「子育てネット」を作っています。4 年前からメールの配信を実施しており、管理・運営については、職員のスキルだけで、体制が十分ではないと思っています。市民の皆さんの声を元に改善していきたいと思っています。

#### 4. 団体意向調査の結果について

##### ○資料3に基づき事務局より説明

##### ○質疑

(1)11. 隣の松原市と比べて子育てしにくいとの声があるが、他市との差はなくしていただきたい。

⇒1. 他市の施策が優れているという意見に関して、具体的にどの部分で松原市がよいか、委員の皆様にお聞きしたい。

⇒11. 地形的なことがあると思います。松原市は、真ん中に市役所があって、どこでも自転車で行けるため、交通の便が良いのではないのでしょうか。図書館の後ろに「まつばらテラス」が新しくできましたね。先日見学してきましたが、多くの方が利用されていました。色々な教室もあって、子どもから高齢者まで利用されていました。

⇒13. 市民プールに滑り台があってよかったとよく耳にします。

⇒9. 民間とのタイアップが上手で、松原の駅の「ゆめニティ」という建物は、上がマンション、下はスーパー。また、市民の方が利用できる会議室などがあります。

⇒1. 松原市に住んでいる方とお話をしても、きっと「松原の方が羽曳野よりも良い」とは言わないかもしれませんが。みんな条件が同じということは無いですが、場所が提供できること、交通の便は大事で、後は工夫かなと思います。

9. 羽曳野市の駅前、場所を広く取ることが難しいのかなと思います。

12. 古市には市民会館があり、使ってくださいとPRしたのですが、駐車スペースが少なく、駅まで徒歩5～10分くらいかかるでしょうか。

13. 一回閉館したのに、エアコンが直っていないと思いました。

7. 松原市は市域が4km四方で、基本的に自転車で生活できます。地理的な面もあり車で出かけるのはしんどいと感じます。

「まつばらテラス」は新設ではなく、改築だったはずで、体育館の横です。また、図書館が古くなって建て直し中ですし、文化会館も建て直しをしなければならないところです。

公民館については、羽曳野市のほうがあるのではないかと思います。公民館や図書館が統合していたはずですが。

6. タダで使える「児童館」などが、要所要所であつたらいいなと思いますね。

1. それぞれ、良いところも、要改善のところもあるということですね。

## (2)10. 支援センターを休日もやってもらいたいという意見について

⇒事務局) 支援センターもですが、学童保育の土曜日開会の話もあり、休日の保育や保育サービス、相談窓口などの開催希望は増えています。

保育園に関しては、土曜日にも保育がありますので、相談など、ぜひ活用していただけたらと思います。

現状、子育て支援センターや児童館などは、土日の開館はしていません。

利用者数は、子どもの人口が減少することに伴って減ってくると思っていましたが、小さいお子さんを連れてくる家庭からすると、貴重な遊び場となり、ニーズがある状況です。

なかなかみんなの輪には入れないけど、支援センターであれば遊びに行けるという方もおられると思います。

もちろんそういう場に出てこられないご家庭もあると思います。「支援センターがあれば」という声が増えていけば、土日の開館も検討していくことが必要だと思っています。

1. 「狭山保育サポートの会」というところが参考になると思います。

既に退職された園長先生などが集まり、活動をされています。補助金が入っていますが、中心の先生方はボランティアで活動されています。最初は、1か所で実施されていましたが、今は何箇所にも広がっており、補助金の額も数億円単位にまでなっているそうです。今は大きくなりすぎて、中心は私もお世話になった元教授ですが、後継者に困っているようです。

地域に、そのようなすごい人が1人いると、その周りに人が集まってきます。自分たちで何かをやるっていう人が1人いると、そういう世界が形成できると思います。

## 11. 高鷲地区の0～2歳の保育は、保育所のみで、他の施設で入れるところは少なくなってきたのではないかな？

事務局) こども未来館たかわしは、3～5歳の子どもたちを保育する施設です。

0～2歳も保育をするかという議論はありましたが、現在は、3～5歳の認定こども園で運営するという方向

でスタートしています。

周辺には、民間保育園の「ベビーハウス社協」「陽気保育園」「たかわし保育園」があり、0～2歳だけでなく、全体の保育ニーズに関してはカバーできるという判断をしています。

今後の状況で0～2歳の保育が足りないというのであれば、検討をしていきますが、今の計画の中ではカバーできているという認識でいます。

## 5. 第2期「はびきの夢プラン」策定に向けた平成31年度のスケジュールについて

○資料4に基づき事務局より説明

○質疑

なし

## 6. 「就学教育・保育のあり方に関する基本方針(案)」におけるパブリックコメントの結果について

○資料5に基づき事務局より説明

○質疑

(1)9. 恵我之荘幼稚園と丹比幼稚園、向野保育園が統合されると聞き及んでいますが、皆さんの耳に入ってから説明をされても遅いと思います。少しでも早く説明をしていただきたい。

給食の扱いについては、保育園は給食、幼稚園はお弁当ということですが、その辺はきちんとしていただきたい。良いところも悪いところも出てくると思いますが、一緒になることのメリットが大きいうようにしていただきたい。

⇒地元の方にも、ご心配を聞いています。ご意見いただいたように、手遅れにならないよう、早くご説明をしたいと思っています。

⇒10. 「こども未来館たかわし」ができるときにも同じような意見を聞いた気がします。

恵我之荘、丹比、向野が統合する件について、やはり今回も地元として、しっかりと話を聞きたい。実際に不安に思われているのは、保護者の方です。「私たちはどうなるのか。」と心配されています。保護者の方々にはっきりと市の方針を早めにお伝えしていただけたらと思います。

地域の理解も当然必要ですが、保護者の方々の不安を理解していただいて、誠実にお答えしていただけるようお願いします。

⇒事務局) 基本方針で、公立の幼稚園、保育園についての大きな方向性を示させていただきました。2年後に実施される統合については、今後計画を策定しまして、早い時期にご説明させていただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

⇒1. いろいろな変化によってメリットが生じる方とデメリットが生じる方が必ずいます。ここを対立しないようにすることが大切です。そこに住んでいる方たちが対立しないようにすることが大切だと思います。

通常、基本方針があっても、具体的な各論にならないとなかなか意見が出てこないです。総論の部分では意見が出ないんです。例えばごみ焼却場。必要だということには多くが賛成するのですが、「ここに建設される」と聞くと、反対が出ます。変化の方向性と利得が一致する人は声を出さない。一致しない人が声を出します。総論のところでの意見の出し合いをすることが重要だと思います。

「未来像」をみんなで考える場を作ることが必要だと思います。

少子化の中で、「子どもが減ります」、「こども園になります」という課題だけではなく、これからは、色々な文化を背景とした方々が隣近所になって生活していくことも、考えていく必要があります。

もうひとつ考えるとしたら、インフラ整備コストです。人口が減少していくと、ライフラインはなかなか維持できなくなります。

ライフラインの維持のために、例えば松原市のように自転車の距離で生活できるようなまちを作るとか、どこに園を作るとか、学校を作るとか、ひとつひとつ話し合いますよね。それをその住民のみの利害対立で考えてはいけません。それは未来をつくらない。未来をつくるのはクレームではなく、ビジョンです。

今現在の利害のことだけを言っていてはビジョンの形成ができません。どこにどのような「未来のまち」を作るのか。鉄道沿線に重点を置くのか、また、自転車で動ける「コンパクトタウン」を作るのか、総論を考えるなかで、ビジョンを鍛え、未来の方向性を考えなければならないと思います。

そういうことをみんなで共有し、子どもだけでなく、孫の時代のことも考える必要があります。

そういう場としての、タウンミーティングをできればと思います。

そこで未来を語ることが大切です。同じビジョンを作り上げるために、個々の施設などに関する意見がぶつかれば、それは結果的に未来のあるべきを考える建設的なものになると思います。

## **(2) 12. 子どもたちが通う距離、どの場所にどのような施設ができるかということに関心があります。また説明はされたことがあったのでしょうか？**

⇒事務局) 大きな枠の話としては1年前の「施政方針」の中で、説明しています。それ以降は、具体的にどのような建物になるのかなどはお話していません。

現在は、基本的な設計段階です。資料がまとまりましたら地域や保護者の方にご説明に行く予定です。その際、建物だけではなくて運営面などについても、ご意見を頂きたいと思います。

⇒12. 身近な問題として感じているのが、子育てサロンなども実施されていますので、0歳児の保護者の方からも、声を聞いていただきたい。

「こども未来館たかし」の時は、話が違ふということで署名活動などもありました。今回はそういうことにならないように、皆さんが納得するようにしていただけたらと思います。

⇒1. 大事なものは、計画や設計ができてから説明するのか、変更が可能な時に説明するのかということになります。

また、感情的にならないように持っていくことが大切で、大きなビジョンをもとに意見を聞くことが必要です。説明会のときに、是非、個々の利害に留まらない「未来のあるべきを語る」という場にしていきたいと思っています。

## **7. 幼児教育無償化について**

### **○資料6に基づき事務局より説明**

### **○質疑**

#### **(1) 8. 私学の幼稚園は満3歳児から対象になるのか？**

⇒資料にもありますが、幼稚園については満3歳からとなっています。

#### **(2) 8. 預かり保育の対象について、幼稚園の預かり保育にも補助金が出るのか？という意見が出ていま**

す。

⇒事務局) 幼稚園の預かり保育というところで、保育の必要性が認められると無償化の対象となります。

また、新たな認定が出るのではないか？ということですが、保育の必要性があると認定された方は上限額までは無償になると聞いております。

**(3)8. 公立の認定こども園を進めているが、羽曳野市立でやると運営費が100%市持ち出しになる。民間でやると、持ち出しが25%になる。それなら、同じ予算で施設が4つできるのに、どうして民間をもっと積極的に行わないのか。**

⇒事務局) 公立の保育園は5つあり、順次縮小・廃園を進めています。幼稚園に関しても14小学校区に14園あるところですが、平成31年度から「高鷲北幼稚園」を休園しています。

現在は、認定こども園化も進めており、全体の園の数を絞らせていただきたいと考えています。

近隣市においては、河内長野市では公立の認定こども園は1園しかありません。

民間では補いきれない保育に関しては、公立で行っていかうという考えで進めています。

**(4)8. 羽曳野市の教育・保育の需要量には、公立の幼稚園は入っているが、私学の幼稚園はあがってこない。羽曳野市の子どもたちの中で、藤井寺市や松原市、富田林市など、私学に通園している子もいます。市は情報をきちんと取って、良い方向に進めて欲しい。**

⇒事務局) 認定こども園化している幼稚園も増えてきていますが、府を通して入ってくる情報は共有しています。

⇒8. 民間園でも支援が必要な子どもたちをできるだけ受け入れたいと思っていますが、その子どもたちを受け入れるとなれば、先生1人が必要になります。子ども3人でようやく先生1人分の補助金になります。補助金がたくさん出ているところに、入園していただくほうが、その子どもさんの本来の意思どおりに活動しやすいのかなということもあります。

お金と環境との2面で考えていかないと、今の財政支援の中では難しいです。3年間お預かりしますが、その3年間で大きく成長する子どもたちもいます。

子どもたちの発達を考えれば、環境を考えた方が良かったりしますし、その辺のところは、民間園でも考えなければいけないと思っていますので、障害の有無を見分けるのが難しい子どもさんは何人でも預かります。

1. 今は大きな岐路に来ていて、将来的にもっと子どもが減る可能性があります。認定こども園にしていくか、今のまま経営を進めていくのかを判断して、園が存続していただくことが大事です。

出来れば、頑張る園を応援する形で、一層の補助金が出るようにするのが望ましいです。

## 8. その他、質疑・意見交換

## 9. 閉会のあいさつ

室長：本日は長時間にわたりまして、ご審議及び貴重なご意見をありがとうございました。

いよいよ、これから計画の策定に本格的に入っていきますが、委員長をはじめ、皆さんから積極的なご意見、ご提案を頂けたらと思います。

最近の事案で児童虐待の問題がクローズアップされています。この地方公共団体が2月1日～14日までに小中学校、幼稚園・保育園、障害児等の通所施設を含めて、通園・就学していない児童に対しての緊急的な総点検をしていて、国のほうから3月4日までに調査をなさいということで、走り回っています。

東京都目黒区、千葉県野田市でおきた悲惨な事件を踏まえて、国のほうからさまざまな対策が打ち出されています。

羽曳野市もそれに遅れることなく、即応できる体制強化ということで、努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。委員の皆様には時節柄ご自愛をお願いいたしまして、今後とも羽曳野市行政に格段のご配慮を頂きますようお願いいたしまして、閉会のあいさつとさせていただきます。